

11月22日に開催されたシンポジウム「次世代をはぐくむ、住まい・まちづくり」に参加された皆さんにアンケートへのご協力をお願いしました。記入いただきましたご感想やご質問の内容(講演者別と全体)と、講演者からのコメントを報告します。
(同内容のご意見・ご感想はまとめて掲載しています。)

シンポジウム全体の感想など

以下、アンケート回答より感想を掲載します。

○大人、親の意識の薄さを欠いた方が増えている。私の世代が育った地域の方々の心情がこの20数年に失われた事が大きい。教育委員会・PTA協議会等々による親達への啓発活動が必要。(道徳教育)(50歳代)

○コミュニケーションの大切さが何においても必要なのに現在はそれが稀薄。(60歳代)

○面白い内容が多だけに時間が少ない気がします。今回の活動の次へのアクションを又見てみたいと思いました(40歳代)

○子どもへの支援・教育もさることながら、子を持つ親への教育がまず必要ですね。今回の催しは市内に住んでいないから全く知りませんでした。幼稚園・小・中のPTAへも非常に参考になりますね。もっと広く知らしめた方がいいですね。(40歳代)

○碓田先生のおっしゃった「若い人をどうまき込むか」という課題に実際に直面することもあります。もっと小さい頃から広く社会を知るボランティア精神の大切さ etc を学ぶ機会 etc 学校教育の改革も必要かもと思います。(40歳代)

○親子で一緒にきける機会があるといいです。セキュリティを強化する建物(マンション、学校)のあり方が個人情報の保護とかでさらに心のかべが・・・。(40歳代)

○子育てには失敗した体験から身につけられました。こういう催しはむしろ現役の子育て世代の方々に聞かせてやりたいというお話が多くありました。オーディエンスとテーマのギャップ。皆さんすばらしい地域コミュニティ活動をされていることに感心しました。これからも頑張って下さい。(50歳代)

○次世代の子どもたちのかかえる問題の多さには途方にくれますが、問題が多すぎますが、とりあえず、子どもたちの精神的、経済的にいかに自立させるかを重点にすることが大切ではないかと考えました。(50歳代)

コーディネーター 大森敏江

たくさんのご意見ご感想をお寄せいただき、ありがとうございました。

時間の制約があったとはいえ、会場の皆様に直接発言していただく機会を設けなかったことを反省しています。

しかし、このような形でコミュニケーションできるようにしたことによって、その場限りではない繋がりを育てていけるのではないかと大いに期待もしています。また悩みを抱えながらも当日参加できなかった子育て真最中の人達にも、ご報告いただいたような貴重な活動によって得られた知恵やノウハウを共有していただけるのではないのでしょうか。

今後とも、より多くの人たちを巻き込んで、子どもが健やかに育つ住まい・まちづくりにむけての的確な情報発信、啓発活動を展開していきたいものだと思っています。

自由意見

○住まい情報センターの存在が意外と知らない方がおられます。(50歳代)

○住まい情報センターでは様々な市民向け、子供向けの事業が取組まれています。それらの方々とがコラボレーションできると面白いことができるのではないのでしょうか。(40歳代)

○つぎの十周年(二十周年)を楽しみます。頑張って下さい。(50歳代)

○前はよく通っていたのですが、初めて中に入りました。もっと前に入ってみればよかったです。(50歳代)

○住宅の相談だけでなくこんなシンポジウムがあるなんてすてき(40歳代)

○カメラ、うざいです。写真を取るのはいいいけど近くでフラッシュたかれるのはいやです。(30歳代)

住まい情報センターよりコメント

シンポジウムへの参加、ありがとうございました。また、アンケートへのご協力もありがとうございました。

住まい情報センターのことを知っていただけて嬉しく思います。住宅相談業務以外にも、セミナーの開催やNPO団体とのタイアップイベント、子どもを対象にしたワークショップなどさまざまな催しを実施しています。

カメラの撮影で不愉快な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。今後は注意して撮影します。

設立10周年の機会に子どもをテーマにしたシンポジウムを開催し、地域・まち・住まい・コミュニティのつながりが大切であることを実感しました。子どもだけでなく、大人も地域の人と関わって生きていくことで世界が広がると思います。住まい情報センターがそのお手伝いをできれば大変幸せです。これからも、「住まい・まちづくり」「住むまち大阪」にかかわる多様な催しを企画してまいります、どうぞご参加下さい。